



2022年度の高大人事交流事業の成果

名古屋市立大学特任教授 吉田一彦

はじめに

名古屋市立大学の高大連携・高大人事交流の事業の2022年度の成果について、担当者の一人として報告したい。本年度は、大学側からは吉田一彦が名古屋市立桜台高校へ、高校側からは花岡道子先生が名古屋市立大学に派遣された。私は、月水木が高校勤務、火金が大学勤務という形態で活動した。高校での活動としては、桜台高校を拠点にしつつ、名東高校、菊里高校、向陽高校にも適宜出向き、特別授業を実施し、また名古屋市立大学入試説明会などの諸行事を実施することができた。

私の専攻分野は歴史学（日本史）である。特別授業としては、拠点とした桜台高校において、高1の「歴史総合」、高2、高3の「日本史」の通常授業に加わり、いくつかの特別授業を行なうことができた。高1は9クラスすべてにおいて、高2は日本史を選択した2クラスにおいて、高3は日本史を選択した3クラスにおいて、1、2学期の中間試験後と期末試験後の期間にそれぞれ2回ずつ授業を実施し、3学期の学年末試験後には高1の2クラスに1回の授業を実施した。高1については7クラスで都合4回、2クラスで5回、高2・高3については4回となり、総計すると58コマとなる。

新科目「歴史総合」の特別授業

「歴史総合」は今年度から始まった科目で、日本史と世界史を総合し、世界史の中の日本史、そして日本の国際関係史を学ぶ科目として構想・設置されている。新しい科目なので、高校のベテランの先生方も若手の先生方も、みな手探りで初年度の教案を練り上げていた。私もこの科目は初めてなので、関係の参考文献（小川幸司・成田龍一編『シリーズ歴史総合を学ぶ1 世界史の考え方』、成田龍一『シリーズ歴史総合を学ぶ2 歴史像を伝える』岩波新書、2022年）を学び、NHKテレビの高校講座などを参照して、何をどう伝えたらよいかについて構想した。せっかくの新科目である。できることなら、大学の学びにもつながるような授業、そして歴史学の面白さや大切さが生徒たちに伝えられるような中身にしたいと模索した。

思案の末、時間の進展の中での〈世界史〉の段階的な成立とその時代の日本というコンセプトで全5回の特別授業を組み立てることにした。第1回は「13世紀の世界と日本——モンゴル帝国」と題して、モンゴル帝国によるユーラシア世界の成立と日本およびベトナムに対する蒙古の襲来の歴史について講じた。第2回は「16世紀の世界と日本——大航海時代」と題して、ポルトガル・スペインの世界進出を契機とするグローバル世界の成立と、日本へのキリスト教の伝来・布教・禁教の歴史について講じた。第3回は「19世紀後期の世界と日本——幕末維新」と題して、南北戦争、ドイツ帝国の成立をはじめとする19世紀後期の欧米の動向と、その時代の日本の国際関係史について講じた。第4回は「20世紀前期の世界と日本——第I次世界大戦」と題して、今日の国際紛争にも直接連関性を持つ第I次世界大戦をめぐる諸問題と日本の対応について講じた。第5回は「55年体制と高度経済成長——冷戦下の日本の政治と経済」と題して、第II次世界大戦後の日本の政治と経済の基調について特別授業を行った。



【桜台高校での歴史総合の特別授業】

高校・大学の学びの連続性を目指して

生徒たちの多くは、中学生時代、「歴史」を暗記科目として認識し、試験対策を中心とする学習を行ってきた。そのためか〈歴史嫌い〉の生徒が少なくない。高1の「歴史総合」では、〈年表暗記型歴史学習〉から脱却すべきことや、〈一国史観〉を克服した、国際関係史を含みこんだ歴史認識の重要性について語った。さらに、〈世界史〉という歴史の捉え方の重要性、各時代各時代のマクロな歴史像を捉えることの重要性、そしてその中における日本の立ち位置を捉えることの重要性について、自分自身の頭で考えてみようかと教えた。この試みによって、生徒たちが教科書・年表を丸暗記するような学習方法から脱却し、〈歴史嫌い〉の生徒が少しでも減ってくれればと願っている。

また、高2「日本史」では、第1回「聖徳太子——聖徳太子虚構論と教科書」、第2回「天皇制度の成立と「日本」国の誕生」、第3回「武士とは何か——近年の研究成果から」、第4回「鎌倉仏教」をめぐる二つの見方——近年の研究成果から」を実施した。高3「日本史」では、第1回「歴史学者は史料にこだわる」、第2回「画期としての明治維新——明治維新の評価をめぐって」、第3回「第Ⅰ次世界大戦と日本」、第4回「55年体制をめぐって——戦後政治の基調と高度経済成長の時代」を実施した。歴史学の分野は、近年、新たな事実が発見、解明されるなど、長足の学問的進歩を遂げてきた。高校の歴史教科書の記述も、その成果が少しずつ取り入れられ、書き換えられつつある。高校と大学の学びをもっと連続性のあるものにしたい。そう考えて、近年の研究成果を紹介しやすいテーマを選び、特別授業のメニューを考えた。生徒たちが、歴史学の学問的な面白さに気づいてもらえたらありがたいと考えている。

「歴史総合」や「日本史」の授業の実施に当たっては、桜台高校の社会科の先生方と多くの意見交換をすることができた。それは私にとって大きな財産となった。将来の日本の教育・研究を考える上で、大学教員にも高校教員にも学ぶことの多い意見交換になったと考えている。

なお、桜台高校では、古典の先生の依頼を受けて、高3の古典の教室に行き（3クラス、2回ずつ）、菅原道真・藤原時平・女房・日記・もののけなどについて、近年の歴史学の成果を活用して解説した。

フィールドワークの実施

1学期終了後の補習期間、「夏期講座」の一つとして「フィールドワークで学ぶ桜本町付近の歴史と文化」を実施した。これは、生徒たちとともに高校近辺の古墳、資料館、寺院などをフィールドワークするという特別授業である。希望者を募ったところ、16名の生徒の参加があり、また教員も

3、4名参加してくれて、にぎやかな見学ツアーになった。手作りの野帳を用意し、桜神明社古墳、鳥栖神明社古墳、鳥栖八剣社古墳、見晴台考古資料館などの身近な歴史遺産を歩いて周るのは楽しく、知的な魅力があり、生徒たちはとても喜んでいて。見晴台考古資料館では、学芸員の伊藤先生が遺物や遺構の丁寧な説明をしてくれ、一同聞き入り、理解を深めることができた。

当初予定では、フィールドワークは7月25日、7月27日、7月28日の3日間の実施予定であったが、最終日は私が新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者になったため、やむなく中止とし、笠寺観音を生徒たちと見学できなかったのは心残りである。

向陽・名東・菊里での特別授業

次に、向陽、名東、菊里の各高校でも特別授業を実施した。向陽では、第1回は「高校の学習と大学の学び」、第2回は「日本の神仏習合と世界——神仏習合は日本だけではない」と題して、受講希望者を対象に実施した。名東では、第1回は「神仏習合と明治の廃仏毀釈——諏訪大社と熱田神宮」、第2回は「モンゴルと世界史の成立——日本とベトナムをめぐって」、第3回は「鎌倉仏教をめぐる二つの見方——近年の研究成果から」と題して、受講希望者を募って実施した。菊里では、「幕末維新期の世界と日本」と題して、高1全クラス生徒（8クラスを2クラスずつ4回）を対象に実施した。いずれも、高校と大学の学びをつなぐと考えて選択したテーマである。

修学旅行の事前学習

本年度は、また、名東、菊里、そして桜台において、修学旅行の事前学習の特別授業を実施した。名東では高2普通科全生徒を対象に「広島の歴史と文化」を、菊里では高2全生徒を対象に「奈良の歴史と文化」を、桜台では高1全生徒を対象に「広島の歴史と文化」を語った。修学旅行は、高校にとって、また高校生にとって大きな行事である。私の話が、生徒たちの自由行動計画の作成や、アクティブ・ラーニングの参考になれば幸いである。

進路・進学をめぐって

次に、高校の進路指導室と連携して実施した進路指導関係の諸事業について報告したい。今の高校生は、高1または高2で文理選択をし、文系科目もしくは理系科目を学んでいく。だから、文理のコース選択は人生における重要な選択の一つになっている。本年度は文理選択にあたり、新企画として、名古屋市立大学教員が講師を務めて「文系の魅力・理系の魅力」を語る講演を実施した。対象は名東・桜台では当該学年の普通科全生徒、向陽は希望者であった。理系の魅力の部分については、総合生命理学部の田上英明准教授（名東、桜台）、木村幸太郎教授（向陽）に依頼して出向いていただき、文系の魅力の部分については私が担当した。生徒たちは大変熱心に聞いてくれ、好評であった。生徒たちの進路選択の一参考材料になれば幸いである。

また、高校の進路指導部から強い要望のある名古屋市立大学入試説明会を、本年度は4校において実施することができた。桜台と菊里では全学年の希望者を、向陽では高1、高2の希望者を対象に実施し、名東では高3の希望者と高2の希望者に分けて、時期をずらして2回の説明会を実施した。桜台では200名前後、菊里では240名前後、名東では2回合わせて100名前後の生徒が集まり、いずれも盛会となった。入試説明会は大がかりなものになるので準備が大変であるが、大学の学生課・教務企画室と連絡を密にとり、また各学部の学部長に依頼して説明担当の先生に出向いていただき、実施することができた。学部長が自ら来校した学部もあり、大学側の熱意がよく高校側に伝わったように感じた。名古屋市立大学の入学試験には複雑なところがあるし、また推薦型選抜には「名古屋市高大接続型」がある。生徒たちの関心は高く、熱心に説明に聞き入り、質疑応答でも当該学部では何が勉強・研究できるのか、どんな資格が取得できるのかなど多くの質問があり、にぎやかな説明会になった。

さらに、進路指導部から要望のあった小論文講座を、菊里（2回）、名東（2回）、桜台（2回）、向陽（1回）において実施した。近年、小論文を入試の試験科目とする大学・学部はますます増加の傾向にある。

講座では、採点項目が問題文に明記されている慶應義塾大学の過去問をとりあげるなどして、何が求められているのかについて解説した。

なお、本年度も、桜台高校の進路指導室において来訪する生徒たちの進路相談に日常的に対応した。来訪する生徒には、名古屋市立大学を志望する者、他の大学を志望する者、進学する学部・学科に迷っている者、大学とはどのようなところなのかまだつかみかねている者など、いろいろな生徒がいる。大学・学部とはどのような場なのか、そこで大学生たちは何を学んでいくのかなど、本年度も生徒たちの諸々の相談に対応した。

高校生と大学生の交流会

高校生たちと接していると、大学とはどのようなところなのか、名古屋市立大学での学生生活はどのようなものなのか、大学生は毎日どのように過ごしているのか、各学部の勉強・研究内容はどのようなものなのか、進路はどのようなのかなどについて、直接大学生から話が聞きたいという要望が少なからずある。進路指導部の先生方からも、是非、大学生と高校生の交流会を実施したい、できれば本校出身のOB・OGの先輩を含む大学生と生徒たちが接する機会を得たいとの希望がある。そこで、本年度も昨年度に引き続いて、名古屋市立大学学生と高校生との交流会を名東、桜台において企画・実施した。当日は、最初は全大会として大学生たちが自分の学部の紹介をし、続けて学部ごとに分かれる分散会として、少人数で歓談・意見交換を行なった。この企画は、高校生からは、大学生の先輩方のナマの声を聞くことができたことと好評であり、また久しぶりに母校に帰った者をはじめとして、大学生にも充実した時間が得られるものになったと思う。



【名東高校での名古屋市立大学学生と名東高校生の交流会】

成果と課題

本年度、私は、人事交流の派遣先である桜台高校において、多くの特別授業を実施することができた。これは大きな成果だったと自分では考えている。桜台高校の校長先生、教頭先生、そして先生方には大変親切に、また前向きに接していただいた。心より深く御礼申し上げる次第である。また、桜台のみならず、名東、菊里、向陽においても、いくつもの特別授業・企画を行うことができた。これも大きな成果だったと考えている。課題としては、この4校以外の名古屋市立の高校、そして中学に出向く機会がなかったことで、これについては残念に思っている。昨年度は、富田高校、中央高校の教壇に立ち、中学校にも出向く機会があった。今後、広報により力を入れることなどによって、他の名古屋市立高校、中学に活動範囲を拡大していくことが課題になると考える次第である。